

春の山菜に舌鼓

旬の山菜を味わう春の山菜会が5月16日、レークサイドアリーナで開催され、約400人が参加しました。今年山菜会が始まってから50年目を迎える節目の年となり、会場には過去の山菜会の写真が展示されました。料理はわらびや筍の他に、南さいはく地域振興協議会で栽培され、初めて収穫されたうどなどでも使われました。今回初めて米子市から参加した女性は「これまでは抽選に外れていて、来れないでいました。最高です。秋にもぜひ参加したいです」と話されました。



春の山菜を味わう参加者

古布で描く世界



作品に見入る来館者

米子市出身の故亀尾健一さんのパッチワーク遺作展が4月4日から5月26日まで祐生出合いの館で開催され、約2千人が来場しました。亀尾さんは全国的にも評価の高い作家で、作品は緋の古布などの青を基調に、幼い日の思い出や加茂川などの風景が描かれています。鳥取市から訪れた女性は「ため息が出るばかり。とても懐かしく、すごく癒されます。男性と聞いて驚いたけど、男性ならではの思い切った構図で絵心を感じます」と作品に見入っていました。

子ども達の成長を願って

4月28日から5月22日まで、緑水湖に、子ども達の成長を願って色とりどりのこいのぼり60匹が飾られました。

連休中には、近くの駐車場に車を停めて記念撮影をする家族連れや、こいのぼりが泳ぐ姿を近くで見ようと湖面にボートを浮かべる方も多く見られ、訪れた人の目を楽しませました。飾りつけは平成13年から行われており、当初は町内からこいのぼりを譲り受けていましたが、近年は近隣の市町村からもこいのぼりが持ち寄られるようになっていきます。



湖面を泳ぐこいのぼり

きもの装いコンテスト1位受賞



受賞式での米澤さん(左)と永田さん(右)

4月14日に開催された「全日本きもの装いコンテスト世界大会」で、米澤範子さん(池野)の指導する生徒が、振袖の部、カジユアルの部でそれぞれ1位を受賞しました。1人の指導者が受賞者2人を教えているケースは初めて。

カジユアルの部で1位となった永田左和さんは「丁寧にポイントがわかりやすい指導で、本当に会えてよかった」と指導について話され、米澤さんは「生徒さんが自信を持つように、プラスの言葉を使うよう心がけています」と話されました。米澤さんは昭和49年から着付け教室を開き、現在も公民館教室や米子市内の教室で指導を行っています。

法勝寺中学校野球部が始球式

4月27日、県内の4球場で春季鳥取県高校野球が開幕し、西伯カントリーパークでは、法勝寺中学校野球部のバッテリー生村美輝くん（ピッチャー）と新宮稔貴くん（キャッチャー）が始球式を務めました。

始球式を終えた2人は、「緊張しました」と大会の熱気に圧倒された様子でした。2人はスポーツ少年団時代にも始球式を努め、今回で2度目の参加となりました。



生村くん(左)と新宮くん(右)



食への提言



提言書を手渡す高橋団長(左)

5月22日、南部町食の応援団長の高橋正憲さんから南部町長へ食育推進への提言書が提出されました。食の応援団は平成18年から活動を始め、アンケート調査などに基づいて課題を検討し、世代ごとに3回に分けて提言を行っています。今回は青年・壮年期の食育に関するもので、地域と連携して食に対する知識を見直すことなどを提言しています。高橋さんは「食の大事さを伝え、何がだめなのかをはっきりと伝えなくてはならない。食の知識をきちんと掴んでほしい」と話されました。

看護フェアで健康チェック

5月11日、西伯病院で看護フェアが開催されました。

会場では医師や保健師が健康チェックや相談などに応じました。無料で骨密度や物忘れ度などが測れるほか、栄養相談や大人のおむつのあて方講座なども行われ、訪れた人はアドバイスを真剣に聞いていました。町内から参加した女性は「少し運動不足といわれました。初めて参加しましたが、丁寧にいろいろ教えてもらって良かったですよ」と喜んでいました。今年45人が参加し、仁田看護部長は「来年は100人の参加を目標にしたい」と話しました。



血圧を測る参加者

TVC第5工場竣工式



挨拶する井口隆取締役社長

鳥取ビブラコースティック株式会社（原工業団地）の第5工場竣工式が4月22日に行われました。竣工式には関係者約50人が出席し、工場の安全な操業を願って祈事を行いました。

同社で製造している自動車用の防振防音ゴム製品は、国内主要自動車メーカーすべてに使用され、国内シェアの6割を占めています。第5工場は、連休明けから本格的に操業が始められ、今回の増床（延べ床面積1700平方メートル）で生産体制が拡充されました。